

孫娘「勝みなみ」について

市来 龍作（4組）



現在ゴルフの道をまっしぐらに、毎日練習に明け暮れています。

まず、彼女のプロフィールから紹介します。みなみは私の長女の子供です。父は綿江台小学校、母は川上小学校の教師。二人の一人っ子として生まれました。

最初にゴルフを始めた動機について話します。それは私がゴルフ好きで、庭にネットを張って練習をしていましたので、その様子を見ていて真似ごとをするようになったのがそもそもの始まりでした。

小学校の三年の頃、子供用の短いクラブを買ってあげたら、私の横でまねながら練習？を始めました。そんなことを飽きずに半年ぐらいやっていました。そこで一度、ゴルフ場に連れて行ったのですが、プレーどころではありませんでしたね。

「松ボックリが落ちていいるよ」とか「池にオタマジャクシがいるよ」など、プレーの時間がかかり過ぎて、うしろの組のプレーヤーに叱られたり、はてには「カートを運転させて」と、まるで屋外の遊園地にでも来ているような感覚でしたね。

最初の頃は、ゴルフ場へラウンドに行こうかと誘っても山形屋やアミュープラザ、水族館などへ行くのが楽しそうで、なかなかゴルフの練習どころかプレイにも行きたがりませんでした。なんとか孫がゴルフに興味を湧けばいいな、ぐらいいの気持ちでしたが、四年生になって鹿児島県のジュニアの大会があり、軽い気持ちで出場したらいきなり八位に入賞しました。それからが始まりでしたね。自ら進んで練習場に通うようになりました。小さい頃からバネのある子で、県の小学校記録で高跳びの記録を作ったりしました。得意はバック転宙返りなんです。

五年生になった夏休みに熊本で九州大会がありまして、二位に入賞、六年生で全国大会優勝して文部科学大臣賞を受賞するまでになりましたね。鼻負目もあるのでしょうが、ゴルフに対する姿勢やセンスもあり、飲み込みの早い子でした。

最初は私が「ゴルフ好きで、孫と遊び心で始めたことがここまで来るとは正直思ってもいませんでした。ゴルフ好きのじいちゃんとしては鼻が高いです。」

実は去年、ある大会での優勝インタビューの時、突然「今日はおじいちゃんの誕生日なんです。おじいちゃんに優勝をプレゼント出来たことが一番うれしいです」十八番ホールの大観衆の前でした。わたしは涙がとまらなかつた。人生に二回、楽しみをもらったような気がしますよ。でも、ここまで評価して貰えるようになったわけですから、もっともっと練習してスケールの大きな強いゴルファーに成長して貰いたいですね。また、地元鹿児島から世界を目指すゴルファーが誕生する日を、そして外国選手と戦う姿を夢に！果てしなきロマンが展開しますよう、頑張ってください。

最後にありますが、祖父バカの話だと思って話し半分聞いて、八期の皆さん！応援よろしくお願いします。

二〇一四年三月

ゴルフ勝選手 東京五輪「私の夢」

快挙から一夜、決意新た

アマチュアで日本女子プロゴルフツアー最年少優勝という快挙を成し遂げた鹿児島県高橋1年の勝みなみ選手(16)は、一夜明けを21日、久々に養父の学校で記者会見。夕方には師匠の「おじいちゃん」といふものゴルフ練習に汗を流すなど大忙し。試合の疲れも見せず、周りに感謝の言葉と笑顔を振りまいた。

午後1時からの記者会見には在席を含む報道陣、約4人が訪れた。勝選手は「鹿児島県の皆さんや友達への応援が力

となり、困りツアード優勝できた。ありがたうございます」と優勝報告し応援へのお礼を述べた。

報道陣から「五輪に出たいか」と聞かれると「私の夢。出たいです」と力をこめた。「一番出たいのは20年の東京五輪」と6年後に思いをはせた。



レベルアップするための練習に父と娘、市来龍作さんと話す勝みなみ選手。1日午後、鹿児島市浜町のベイサイドゴルフクラブで。

答えは否、プレー同様、度胸と貴様さえ無かった。夕方には、スイングのチェックのため、さっそく鹿児島市のゴルフ練習場へ。テレビ局数社がカメラを回す中、祖父・市来龍作さん(74)の助言を受けながら約10球を打ち込んだ。帰り際、練習場から花束を贈られると、にっこりと横面の笑み。「ありがたうございます」。ゴルフ界に一躍輝きを放つ新星は、少女の顔に戻った。(桑元伸二)

